

南アルプスからのSOS

2025年4月20日(日)13:30~16:30

松本勤労者福祉センター第二研修室

参加費 500円

●トークセッション「私だけが知っている南アルプス」
馬目弘仁(山岳ガイド)×猪熊隆之(山岳気象予報士、ヤマテン)
司会 宗像 充(三伏峠小屋冬期小屋番)

●報告「池上彰もびっくり! そうだったのか 建設現地」
服部隆(南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク共同代表)
「南アルプス探検隊蛇抜沢(国立公園特別保護地区)に行く」

*動画あり

金丸 宗(映像取材者) 山梨県の工事進捗状況
宗像 充「日本で最も美しい村」大鹿村の真相
司会 小畑ちさほ(自然保護活動家)

昨年3月29日、JR東海は2027年の開業を断念し、2034年以降の開業を表明しました。各地の工事が実は2027年には到底間に合わなかったことが明らかになっています。「静岡県が足を引っ張っている」との報道は、開業の見込みが立てられないJRによる責任転嫁キャンペーンに、マスコミが乗ったのが真相でした。

南アルプストンネル建設現地の長野県大鹿村では昨年、2カ月続けてダンプの転落事故がありました。山梨県ではすったもんだの末に始まった調査名目の先進ボーリングを途中で放棄。岐阜県のトンネル工事ではすでに死者が出ています。大鹿村でも減水が、地下工事による水枯れや気泡の発生も沿線各地で起きています。

静岡県で工事が始まれば、300mの地下水位の低下や河川流量の減少は避けられません。

JRはこれら環境の変化に代替措置を取ると述べていますが、一度失われた自然は元には戻りません。

リニアは国家的事業と言われてきました。しかし南アルプスもまた国立公園であり、自然と人間社会の共生を掲げるユネスコエコパーク(生物圏保存地域)です。

山を愛し親しんできた私たち登山者は、南アルプスの自然と人間社会の架け橋です。できるあてもないリニアのために、受け継いだ大切な冒険のフィールドをなぜ失わなければならないのでしょうか。

リニアを作って南アルプスの自然をなくしますか？



主催 大鹿の十年先を変える会 TEL0265-39-2067

協力・リニア新幹線を考える登山者の会、国際環境 NGO FoE Japan

後援 全国自然保護連合、リニア新幹線沿線住民ネットワーク

南アルプスの未来にリニアはいらない

● 発言者プロフィール ●



馬目弘仁 1969 年生まれ、福島県出身松本市在住。山岳ガイド。信州大学農学部へ進学し本格的なクライミングの世界へ。南アルプスでは甲斐駒や戸台の岩場に足跡を残す。半年間休学してヨーロッパへ渡り、ドリユ西壁やグランドジョラス北壁、フレネイ中央ピラーを登る。2008 年テンカンポチュエ峰(6,446m)北東壁初登攀。2012 年キャシャール南ピラー (6,770m) 初登攀でピオレドールを受賞。クライマー交流の場として「ウインター・クライマーズ・ミーティング (WCM)」の発起人・世話役。

猪熊隆之 1970 年生まれ、新潟県出身茅野市在住。中央大学山岳部で山を始め、チョムカンリ登頂、エベレスト西稜 (7650m まで) を登る。最近ではマナスル、エベレストなど現場で気象情報を配信しながら海外の高峰に登頂している。山岳気象予報士として日本初となる山岳専門の気象会社ヤマテンを設立。国内の山の天気にとどまらず、海外の高峰の登山隊の登頂に気象予報の側面から貢献する。また中央大学山岳部の元監督であり、国立登山研修所の講師・専門調査委員を務める。著書に『山岳気象大全』(2011、山と溪谷社)、『山岳気象予報士で恩返し「山の天気屋さん」の毎日、ヒヤヒヤ・ドキドキ』(2013 年、三五館)、『山の天気だまされるな! 気象情報の落とし穴を知ってますか?』(2016 年、山と溪谷社 ヤマケイ新書) 他多数



宗像充 1975 年生まれ、大分県出身大鹿村在住。一橋大学山岳部に在籍し、クライミング、雪山、沢登りと日本各地の山を登る。岳人で記録欄を担当し、ルポを中心にライター・編集者として活動。2012 年にリニア新幹線の取材で大鹿村に入ったのをきっかけに、2016 年に大鹿村に移住。現在は、「大鹿の十年先を変える会」でリニア新幹線反対と地域づくりの活動を続け、会報「越路」を発行。三伏峠小屋冬期小屋番。雑誌 Fielder で連載を持つほか、著書に『ニホンオオカミは消えたか?』(2017 年、旬報社)、『南アルプスの未来にリニアはいらない』(2018 年、大鹿の 10 年先を変える会) ほか。

服部隆 1953 年生まれ、静岡県焼津市在住。立教大学法学部に進学。自然破壊に憤り、東大・宇井純主催の反公害自主講座(駒場)に参加、水俣病患者の支援活動にかかわる。30 歳で静岡に U ターンし、成瀬陽一(当時 20 歳)と出会い、男だけの沢登り同人「海綿隊」を創設。大井川水系では栗代川、信濃俣河内、赤石沢、奥西河内、倉沢等を遡行。38 歳でフリークライミングに傾倒、クライミングチーム「やくたあもにゃあ」を設立、馬目氏を会員に引きつり込む。現在ナウシカ山の会主宰。南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク共同代表。「南アルプスを守って死ぬのが大人の責任」と旗を立て、全国講演行脚中。



金丸宗 1962 年生まれ、松本市在住。元 NHK 職員の映像取材者。リニア新幹線の工事を巡る生活・環境破壊のリスクや反対運動について、広域・長期間にわたって映像記録を続けている。

小畑ちさほ 1962 年生まれ、諏訪市在住。父の小尾博巳は南アルプススーパー林道、美ヶ原ビーナスラインの建設反対運動に携わった登山家であり自然保護活動家。自身も反対に加わった霧ヶ峰のメガソーラー建設は中止に。南アルプススーパー林道は、2019 年の豪雨によって北沢峠～広河原間が崩壊し、50 年前の反対運動が予言した通りに通行不能となった。

